

# 協力隊員から農委2期目 狩猟免許も取り地域支援

早川町 東京出身の大木彩さん

協力隊の任期中は地域住民が立ち上げた直売所を引き継ぎ運営したほか、遊休農地再生や農業体験の受け入れなどを中心として、地域活性化に積極的に取り組んだ。

任期終了後は集落支援員として、同町特産ワイン「恋紫」の原料となる「ヤマ・ソービニヨン」や大島集落で栽培されているサトイモの一種「島根芋」など、特産品の栽培を支援しながら各集落

【山梨】日本一人口の少ない「町」早川町。同町に地域おこし協力隊の任期後も定住し、農業委員2期目を迎えているのが大木彩さん(32)だ。写真。

東京都出身の大木さんが協力隊になったのは2018年。もともとアウトドアスポーツが趣味で、自然の中で仕事がしたいと思ったことがきっかけだ。

首都圏

## 全国農業 新聞 NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

2023年(令和5年)

11月17日 金曜日  
月4回金曜日発行



の実情把握と対策活動を行っている。

こうした経験が評価され20年からは農業委員を務めており、21年には狩猟免許を取得し作物を獣害から守る活動も始めている。大木さんは「町の97%が森林という農業には難しい環境だが、この地が育む魅力的な農産物の存続に貢献していきたい」と語る。